

## 2023 年度実施状況等調査報告書

調査団体	鴨川市国際交流協会
事業名	災害時外国人支援事業
調査日時	令和5年12月17日(日)
実施形態	対面
<p>報告事項</p> <p>1. イベント見学について(9時00分~12時00分)</p> <p>1) イベント名: 外国人とのコミュニケーション講座</p> <p>2) 参加対象: 外国人留学生、日本人学生、地域住民(留学生以外の外国人)、地域住民(外国人除く。地域のスタッフ含む)、団体スタッフ等</p> <p>3) 参加者数: 22名(うち、外国人留学生5名、日本人学生0名、地域住民(留学生以外の外国人)1名、地域住民(外国人除く。地域のスタッフ含む)14名、団体スタッフ1名)</p> <p>4) 概要:</p> <p>受付には1名以上スタッフがおり、参加者の出欠チェックをしていた。</p> <p>本イベントは、災害時外国人支援事業のうち「外国人とのコミュニケーション講座」として実施され、講義「外国人とのコミュニケーションとやさしい日本語の活用」、ワークショップ「やさしい日本語を使ってみよう」、ロールプレイ「やさしい日本語でコミュニケーションを取ろう」の3つの構成で実施された。「外国人とのコミュニケーションとやさしい日本語の活用」では、鴨川市の外国人の状況について講義が行われた。ワークショップ「やさしい日本語を使ってみよう」では、音声翻訳アプリ「Voice Tra (ボイストラ)」が紹介された。講義を受けた上で「やさしい日本語を書き換えてみよう」「やさしい日本語でポスターをつくろう」というテーマで実践の時間が設けられた。広報記事をやさしい日本語に書き換え、参加者同士で意見交換が行われた。また、4人1グループで架空のニュース記事をもとにポスターを作成し、外国人留学生が見て、何を伝えたいか理解ができるかどうかの確認発表を行った。ロールプレイ「やさしい日本語でコミュニケーションを取ろう」では、1グループに必ず1名外国人留学生が入るよう予め決められたトーク形式のワークショップが行われ、多くの時間が配分される工夫が見られた。マスク着用は個々の判断に委ねるとしながらも教室を2つに分け、新型コロナウイルス感染症等の感染症対策が見られた。配布されたアンケート集計表は外国人留学生にも分かりやすいようやさしい日本語に書き換えられており工夫が見て取れた。</p> <p>高齢化が4割に迫るうえ災害を避けることができない鴨川市において、災害時に国籍を問わず助け合えるような人材を育成促進に努める意義は大きく、交流イベント等を通じて在住外国人との交流や相互理解を深めることは、日本の防災について学ぶことだけでなく、地域住民との交流を図る大きな機会になると思われる。</p> <p>2. 実施状況等調査(ヒアリング)について(12時25分~13時00分)</p> <p>・概要:</p> <p>今年度の実施計画・予算及び個人情報の管理について確認した。参加者を確保するため声かけ及びSNS等で周知しており、配布するチラシは、費用削減のため鴨川市国際交流協会で作成している旨、説明があった。その他、本助成事業に係る意見交換を行い、要望等を伺った。</p>	